



## 末広町商店街振興組合



キャッチフレーズ

地域に根ざした商店街  
～お笑いと文化の拠点  
“せと末広亭”でまちなか再生へ～

### 事業実施の背景

末広町商店街は、深川神社の門前町として戦前から栄えており、昭和38年にアーケードが完成、昭和50年初めには100店舗が軒を連ねていたが、昭和53年の名鉄瀬戸線の栄乗り入れを機に人の流れが変わるとともに、マイカーの普及、大型店の進出などで、近年客足はめっきり減ってしまった。

このため平成18年4月、40歳代の若い理事長を選出し、思い切った商店街の活性化に取り組み始めた。

### 事業の概要

地域に根ざした商店街を目指し、お客様と一緒に「楽しい」時間を過ごすため、48歳の新理事長を中心とした若手メンバーが、アイデアと行動力で商店街活性化を進めている。

### せと末広亭

空き店舗の改装（壁貼り・電気関係・看板づくりなど）を、若手組合員たちが自らの手で行い、平成18年8月にオープンしたコミュニティ施設。雰囲気づくりも兼ねながら低コストに抑えるため、古民家の建具を再使用するなどして工夫している。店内を、寄席と教室の2つの空間にわけている。

#### （1）市民活動事業

平日、地域住民の文化活動等の場として貸し出し。（皮細工や彫金細工、英会話教室）

#### （2）賑わい創出・芸人育成事業

土日を中心に、県内で活躍する若手芸人・落語家・大道芸人による公演を実施。



<せと末広亭. 若手お笑い芸人による寄席の様子>

# 瀬戸市

## ピーコックギャラリー

平成 16 年、空き店舗を活用し、広く市民の写真やクラフト作品を展示するために貸し出すスペースとして「ピーコックギャラリー」を開設。ピーコック（孔雀）は末広りのイメージで、商店街のシンボルとして使用していたもの。月に 2 回、展示が変わるたびに新聞取材等で広報しているため宣伝効果が高く、集客につながっている。



## 商業科ショップ

地元 瀬戸窯業高校 商業科の生徒が、夏休み中の 6 日間、ピーコックギャラリーで「商業科ショップ」を開店する取り組みで、平成 18 年で 4 回目となる。生徒たちが地元業者から仕入れた商品を販売し、接客を学び課題研究に取り組むとともに、平成 18 年は、同校電子機械科も参加し、生徒の作ったりモコン操作のロボット展示などを行った。

## ユニークな飾りつけ

時節に合わせ、アーケードに手作りの飾りつけを行っている。市内の保育園児の作品や、招き猫・せとのやきものなどの絵をあしらった垂れ幕を飾る他、ワールドカップやオリンピックなどの国民的イベントの時は、各国のジャンボユニフォームやフラッグなども登場する。すべて、店主やおかみさんたちのグループ「すみれさくら組」による手作り。



## 事業の効果

- ・ 平成 18 年 8 月、空き店舗を改装してオープンした「せと末広亭」は、平日は地域住民による文化活動のために利用され、週末は、若手芸人たちの公演により立ち見の客が出るなど、滑り出しは極めて順調。人々を商店街に呼び込む核となっている。
- ・ ピーコックギャラリーでは、1 つの展示につき 1 週間で 500～650 人の集客があり、商店街の集客につながっている。
- ・ 商店街を彩る手作りの飾りつけにはユニークなものが多く、マスコミにもよく取り上げられている。

## 事業の課題

- ・ 「せと末広亭」をさらに PR すること。
- ・ 「せと末広亭」の寄席部分の平日利用稼働率を上げること。

## 末広町商店街振興組合

所在地：瀬戸市（名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅東南）

問合せ先：理事長 野田仁志

電話（0561）82-2532

